

# 前橋市立東中学校の取り組み

## 安心して通える学校づくり

前橋市立東中学校では、新入生の受け入れをスムーズに進められるよう、小学校と連携した取り組みを行っています。

これは、小学校と中学校が情報共有をしっかり進めることで、子どもたち一人一人がどのような課題を抱えているのかを中学校が早期に把握をして、きめ細やかな対応をするためです。

子どもたちが自ら将来のことを考えて、学ぶ意欲を持つには、安心して学校に通えることが大切です。

## 年間を通しての受け入れ準備

新入生受け入れの準備は11月から始まり、東地区の小・中学校の先生が集まり、各学校のいじめや不登校の状況について情報交換をします。

1月には、中学校の先生が小学校へ授業参観に行きます。子どもたちが授業を受けている様子を見て、中学校でどんなことに気を付けたらよいのかを考えます。小学生にとっては、どんな先生が中学校にいるのかを知る機会にも

なります。

中学校への進学が間近になると、部活動や先輩との付き合い方、学習する内容、どんな先生がいるかなどの心配や不安を持ち始めます。このため、2月には新入学説明会の機会に、子どもたちや保護者へ事前の相談を呼び掛けています。また、中学生が小学校へ行き、先輩としてさまざまな質問に答えたりする取り組みも行っています。先輩の話を聞いたり、中学校へ事前に相談したりすることで、不安を減らし、希望を持って中学校へ進学できるようにしています。

新入生が中学校での生活に慣れた6月には、小学校の先生が中学校へ授業参観に来ます。子どもたちの様子を小学校の先生に見てもらおう機会になっています。

## 一人一人に寄り添った指導

中学校では、毎日の子どもたちの様子を担任の先生だけでなく学校全体で把握して、一人一人の子どもたちに寄り添った指導をしています。これらの年間を通じた学校交流の動きは東地区全体にも広がっています。

## 新入生受け入れの流れ

- 11月 いじめ防止不登校対策会議
- 1月 小学校への授業参観
- 2月 新入学説明会  
小学校への出前授業
- 3月 新入生に関する情報交換
- 4月 入学式
- 6月 中学校での授業参観



中学校生活の説明（新入学説明会）



小学校への出前授業

# ※ 県スーパーバイザーの樺澤さんにお話をお聞きしました！

※スーパーバイザーは、県内5カ所の教育事務所に配置され、スクールカウンセラーへ指導等を行う人です。



樺澤 徹二さん

## ●中学校へ進学する段階の特徴

中学校進学は大きな節目となり、ハードルは2つあります。

1つ目は、子どもたち自身が心身ともに思春期を迎えること。心身が急速に発達するため、不安定になります。

2つ目は、生活環境が大きく変わること。授業のやり方が変わり、新しい教科の勉強も始まります。また、部活動が始まり、先輩・後輩関係なども生まれます。

これらの変化を克服することで、成長が次の段階に進みますが、変化を乗り越えられずつまずく子もいます。子どもが不安定になると、親も同時に不安定になります。

つまずく要因としては、対人関係をうまく持てない、親離れがで

きない、小学生の成長段階の課題が乗り越えられていないことが考えられます。

## ●子どもが目標に向かって頑張れるように支える

対人関係の悩みや不安も多いので、学校やPTA、地域の中で子どもたちが人間関係をつくれるように手助けをするのも良いです。子どもたちが一緒に協力したり、異なる世代の人と触れ合ったりするのは良い経験になります。

中学校進学の不安の解消には、中学校の現実をしっかりと子ども自身に伝えることが大切です。子どもたち自身が実際に見聞きし、体験することで、漠然とした不安感はなくなります。

また、子ども自身が生きる目標を持つことも重要です。学校や家庭では、子どもたちの良さを明確にし、目標に向かって頑張れるように支えてほしいです。

## 保護者の方へ

### 子どもたちの成長のためにできること

次のことを心掛けてみるとよいでしょう。

- 規則正しい生活をさせる（早寝早起き朝ご飯など）
- 子どもの自主性を尊重する
- 反抗期は子どもの成長だと思って温かく見守る
- できないところを指摘するよりもできる（できている）ところを認める



## 子どもたちへ

### どんな悩みも相談しよう

人間関係や自分の将来についてなどたくさん悩む時期です。どんな悩みも一人で抱え込まずに、学校や保護者、友だちなどに相談し、相談先をたくさん持ってください。周りに相談して、自分で考えて選択するというのも大人になる（自立する）一歩です。

